

石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和6年(2024)/3.30発行 No.185

CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第33回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会
- ・委員会報告
- ・となりの薬・薬連携物語
- ・エキスパートに聞く!～輝く石川のキラ星～
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿
- ・病薬ニュース索引(183号～185号)



〔巻頭言〕

金沢市立病院薬剤室の取り組み 金沢市立病院 竹田 和喜…… 1

〔第33回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会〕

系統的環境サーベイランス結果に基づくレジオネラ院内感染の原因探索とその対応	金沢大学附属病院	中出 順也…… 3
多職種連携による不眠時指示薬標準化への取り組み	浅ノ川総合病院	澁澤 宗…… 4
喫煙患者におけるクロザピンの用量調整にTDMが有用であった一例	金沢大学附属病院	竹本 弘樹…… 6
骨粗鬆症治療薬服用患者における治療継続率の比較	石川県済生会金沢病院	谷本 百恵…… 8
せん妄を題材とした薬学実務実習生向け症例検討実習の有用性評価	金沢医科大学病院	清水 善仁……10
当院における院外処方推進への取り組み	石川県立中央病院	茅野 尚希……12
電子処方箋の運用と調剤薬局との連携	公立松任石川中央病院	金原 寛子……14
情報システム活用による医薬品適正使用の効果の検討	石川県立中央病院	台蔵 剛士……16
ミロガバリンの適正使用に向けた使用実態調査	浅ノ川総合病院	吉田 宗広……18

〔委員会報告〕

教育研修委員会

第34回実務者研修会報告	加賀市医療センター	北出 紘規……20
第34回実務者研修会アンケート結果		……21

精神科治療委員会

令和5年度第1回精神科治療委員会研修会報告	金沢医療センター	酒谷 健斗……23
-----------------------	----------	-----------

がん治療委員会

第41回がん薬物療法セミナー報告	小松市民病院	桂 英之……24
------------------	--------	----------

〔となりの薬・薬連携物語〕

芳珠記念病院	安藤 友貴……25
--------	-----------

〔エキスパートに聞く！ ～輝く石川のキラ星～ (27)〕

日本褥瘡学会 「認定褥瘡薬剤師」	城北病院	中嶋 孝明……26
------------------	------	-----------

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 ……29

〔南船北馬〕 ……30

〔寄稿〕「古寺との結縁-62」永光寺・豊財院～白山妙理権現・馬頭観音～ 院瀬見義弘……31

〔病薬ニュース索引 (183号～ 185号)〕 ……34

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

※石川県病院薬剤師会ホームページ・会員専用ページが新しくなりました。

表紙写真 撮影
：熊走 尚志

白い藤棚と梅

兼六園の真弓坂を上ると左に瓢池と夕顔亭がありそこに咲く白い藤棚がある。すぐそばの蓮池門近くに紫色の藤が見られる。その坂を上がりきったところは梅園があり散策を楽しむことができる。

巻頭言

金沢市立病院薬剤室の取り組み

金沢市立病院 薬剤室長 竹田 和喜
石川県病院薬剤師会 理事

始めに、1月1日に発生した令和6年能登半島地震により被害を受けられた方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。また、現地の医療機関で懸命に医療を支えられている石川県病院薬剤師会の先生方をはじめとする医療従事者の皆様に敬意を表します。

巻頭言に替えて、当院の取り組みを一部紹介させていただきます。

・薬薬連携への取り組み

多くの当会会員施設においても保険薬局との連携に注力されていることと思います。当院では2か月毎に近隣の保険薬局の先生方と「薬薬連携セミナー」を開催しています。当院と保険薬局の薬剤師が持ち回りで発表を行い、活発な質疑応答を通じて研鑽を積んでいます。最近では保険薬局の先生から自施設での吸入薬指導への取り組みについて発表があり、継続的な吸入手技の確認と指導の効果について紹介いただきました。保険薬局での丁寧な指導の様子を知ることができ、トレーニングレポート等を通じた先生方の吸入手技評価を処方医にフィードバックすることの重要性を再認識する機会となりました。セミナーとあわせて様々な意見交換を行い、医薬品の供給状況に関する情報共有などを行っています。この他、保険薬局の先生を対象に、年1回、がん薬物療法に関連するセミナーの開催を実施しています。

・がん専門薬剤師認定制度による他施設でのがん薬物療法の研修

当院はがん専門薬剤師認定制度（日本医療薬学会）のがん専門薬剤師研修施設（連携施設）の認定を取得しています。当院のような連携施設のみでの研修では認定取得要件を満たすことはできませんが、基幹施設と連携した研修を行うことで要件を満たすことが可能になります。2022年度に当院職員がこの制度に基づき、金沢大学附属病院を基幹施設として研修を実施させていただきました。自院のみの症例では取り扱うがん種に偏りが生じてしまう問題があり、また経験豊富な金大病院の先生方の指導を受けて、研修させていただいた職員にとって有意義なものとなりました。また研修内容を職員間で共有することで、他の職員にも良い刺激となりました。今回はがん専門薬剤師認定制度による研修でしたが、今後このような他施設での研修連携を何らかの形で実現できればと思います。

以上、当院の取り組みについて紹介させていただきました。今後も「薬薬連携セミナー」を通じて保険

薬局の先生方と顔の見える関係性を維持していきたいと考えています。また、がん専門薬剤師のみならず、様々な認定資格取得を目指すことを通じて職員の専門性を高め、安心安全な薬物療法を患者に提供できるよう努めていきたいと思ひます。

今年2024年は診療報酬改定の年であり、会員施設の先生方も対応に奔走されていることと思ひます。改定の基本方針には、タスク・シェアリング／タスク・シフティング、チーム医療の推進が掲げられているほか、電子処方箋の普及をはじめとする医療DXの推進が謳われています。また、後発医薬品やバイオ後続品の使用促進への取り組みや医師・病院薬剤師と薬局薬剤師の協働の取組による医薬品の適正使用等の推進が求められています。

病院薬剤師への期待がますます高まっている中、当院においてもこれに応えるべく、業務の見直しと効率化、将来的には調剤業務の自動化などを進めていかなければならないと考えております。

